

コンテンツ専門調査会  
企画ワーキンググループ第2回会合にあたり

2006 - 10 - 16

岡村 正

前回の企画ワーキンググループでの議論、その後の意見募集に寄せられた意見をもとに、「コンテンツ振興戦略に関する論点」が整理され、また、「コンテンツの海外展開」に関する対応策案が事務局より提案されております。これら論点整理と対応案を拝見しますと、以下の視点が必要ではないかと考えます。

#### 1. コンテンツの再利用・二次利用

まず、コンテンツ振興に関しては、論点整理にもあるように「コンテンツの創出・供給」、「コンテンツを次々生み出して」といった、新たなコンテンツの創出を通じたコンテンツの振興について力点が置かれているように見受けられますが、コンテンツの再利用・二次利用の振興にも注力すべきと考えます。

例えば、着メロ、着歌は、必ずしも、新しい楽曲だけではなく、相当古い楽曲も対象になっており、新たなビジネスモデルにより、古いものが掘り起こされ、再利用、二次利用されております。

楽曲と同様、日本には、米国ハリウッドに負けないくらいの豊富な過去のTV映像コンテンツが存在しており、現在も日々新たなTV映像コンテンツが創出されております。これら、TV映像コンテンツの再利用、二次利用の振興をより深く検討するべきと考えます。

#### 2. コンテンツポータルサイトの戦略的活用

過去のTV映像コンテンツが、楽曲のように、新たなビジネスモデルを通じた再利用、二次利用がされない理由として言われているのが、著作権処理の問題ですが、今の状況を放置しておく、現在作られている映像コンテンツも数年後には過去と同様に著作権処理が困難になってしまう可能性があります。

この問題点を解決するためにはいろいろな対策が必要と思われませんが、そのなかのひとつがコンテンツポータルサイトです。コンテンツポータルサイトの拡充と利用の促進が、将来のコンテンツの再利用と二次利用を促進することになります。またコンテンツポータルサイトは、日本のコンテンツの海外発信手段としても機能します。特に、前回意見提出したように海外へのコンテンツ発信は、日本文化の海外への発信につながり、文化交流という外交面において大きな効果が期待できます。

したがって、コンテンツポータルサイトについては、振興戦略の対応策のひとつとして加えるべきと考えます。

そしてコンテンツポータルサイトは、「日本のコンテンツの強みを世界に発揮」する手段となり、「日本のコンテンツの魅力を世界に伝える」手段となります。日本政府は、このコンテンツポータルサイトの運営を積極的に支援するべきと考えます。

一方、コンテンツポータルサイトには、その投資に見合った成果を生むのが早くて数年後と考えられるという問題点があります。このため、この間の投資コスト・運営コストは相当なものになると見積もられますが、前回意見書で述べましたように、コンテンツポータルサイトを利用する立場にあるコンテンツ産業界は、中小事業者が多いため、コンテンツ産業界だけその資金負担をすることは困難であると危惧しております。このため、産業界をあげて、コンテンツポータルサイトの維持運営および拡充に努めておりますが、本来のユーザーでない業界が多額のかつ長期にわたる資金負担をするには限界があります。

そこで、政府には、コンテンツポータルサイトの持つ戦略的機能、外交的機能を重視して、資金面での相当な支援を検討するべきと考えます。場合によっては、政府関連の機関を活用してコンテンツポータルサイトを運営することも考えられると思います。いずれの形であれ、政府の資金面を含めた支援を検討するべきであると考えます。

以上